

Wi-Fiネットワーク分析&サーベイツール

NetSpot

利用ガイド

LIFEBOAT
a megasoft company

Microsoft は Microsoft Corporation の登録商標、Windows は同社の商標です。その他の商標は、それぞれ該当する会社が所有する商標です。

注意
本冊子に記載されている情報は、予告無しに変更されることがあります。株式会社ライフボートは、本利用ガイドあるいはプログラムに記載されている内容に対していかなる誤りが含まれる場合にも、一切の保証を行いません。

本利用ガイドで使用している製品の画像は、ベータ版製品のものとなります。製品のアップデートにより、画面が変更されたり、違いが生じることがございます。

EDITION
November 2026
Copyright © 2026 by Lifeboat, Inc.
All rights reserved.
Printed in Japan

PUBLISHED BY
株式会社ライフボート
東京都千代田区神田神保町 2-2-34
ホームページ： http://www.lifeboat.jp/

目次

第1章　はじめに 4

1-1　動作環境 4
1-2　注意事項 5

第2章　インストールと概要 6

2-1　インストールとアクティベーション 6
2-2　起動方法、操作画面 12

第3章　検査 14

第4章　測定 17

4-1　測定 18
4-2　ゾーン分け、スナップショット追加 26
4-3　アクティブスキャン 30
4-4　視覚化(ヒートマップ作成)について 32
4-5　用語について 34

第5章　計画 36

5-1　プランニング 36
5-2　他のフロアを追加する、床の設定 51
5-3　ゾーンを追加する 55
5-4　別の建物を追加する 57

第6章　その他の操作 60

6-1　レポート出力 60
6-2　プロジェクトのエクスポート/インポート 62
6-3　プロジェクトのコピー 64
6-4　設定 65
6-5　アンインストール 69

第1章　はじめに

NetSpot は、周囲の Wi-Fi ネットワークをスキャンして電波の状況を表やグラフで表示したり、電波強度を計測することでヒートマップの作成が行えるソフトウェアです。目に見えない電波を視覚化することで、Wi-Fi 環境の改善に役立てることができます。

1-1　動作環境

＜必要なシステム＞

対応 OS:	日本語 Windows 11/10 macOS 11 以降
対応機種:	上記 OS が正常に動作するパソコン （PC/AT 互換機）
ディスクの空き容量:	1GB 以上
その他:	Wi-Fi 対応のノート PC インターネット接続(アクティベーション時／アップデート時)

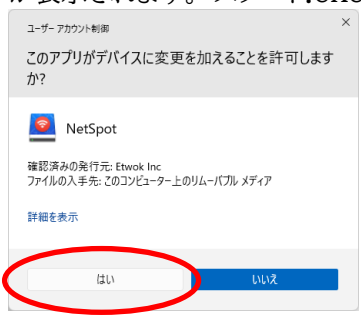
1-2 注意事項

- 実際の環境を調査する製品のため、移動して使用します。ノートPCやモバイルPCにインストールしてください。
- 現時点では、ノイズレベル（雑音レベル）、信号対雑音比（SNR）の測定は Mac 版のみで可能です。
- 検査モード、測定モードを使用時は、Wi-Fi の諸情報を取得するために端末の位置情報サービスを有効にする必要があります。
- スマートフォン用アプリのサポートは行っておりません。
- 本製品についての最新の情報はホームページをご参照ください。（https://www.lifeboat.jp/）

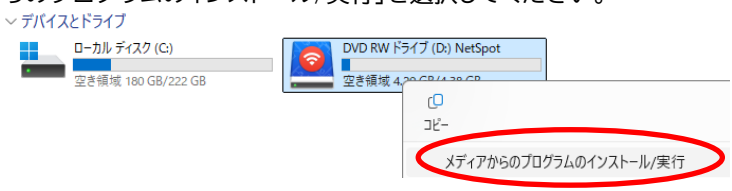
第2章 インストールと概要

2-1 インストールとアクティベーション

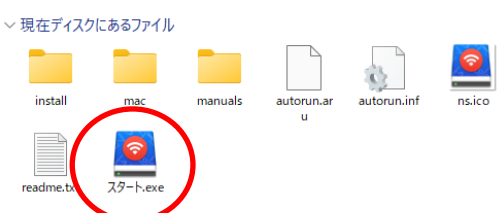
(1) 製品 CD をコンピュータに挿入すると自動再生が起動して以下の画面が表示されます。「スタート.exe の実行」を選択してください。



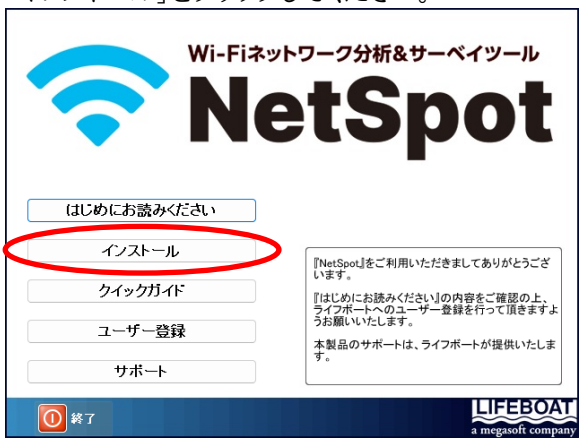
※ 表示されない場合は、エクスプローラで製品 CD を右クリックし「メディアからのプログラムのインストール/実行」を選択してください。



※ 製品 CD 内を開いて「スタート.exe」をダブルクリックしてもインストールできます。



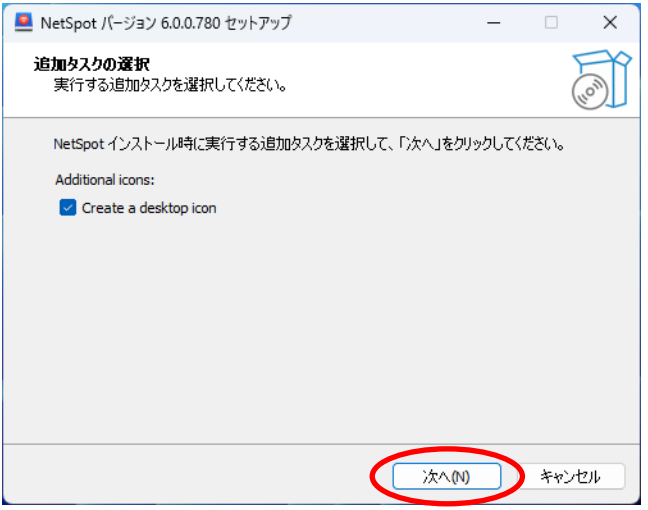
(2) 「インストール」をクリックしてください。



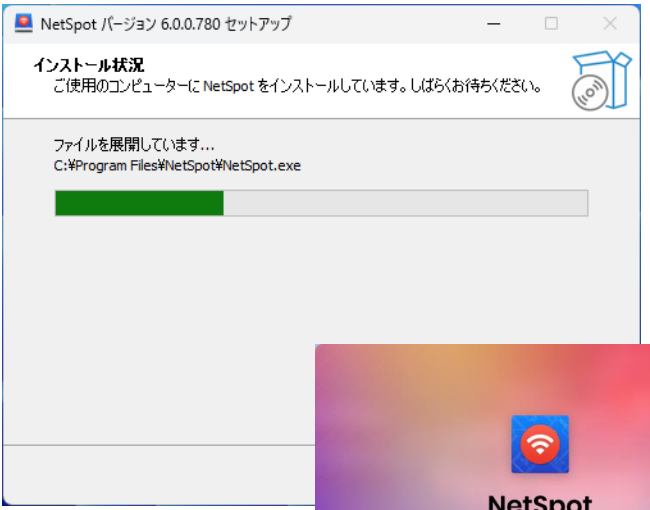
(3) ユーザーアカウント制御の画面が表示されましたら「はい」をクリックしてください。



(4) 「次へ」をクリックします。

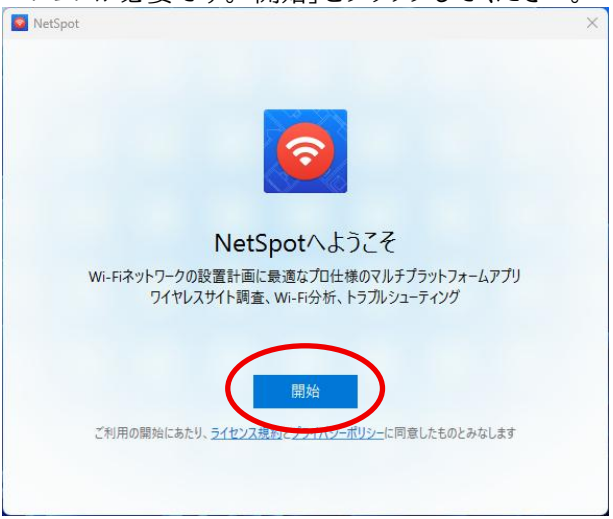


(5) インストールされます。画面が変わるまでお待ちください。

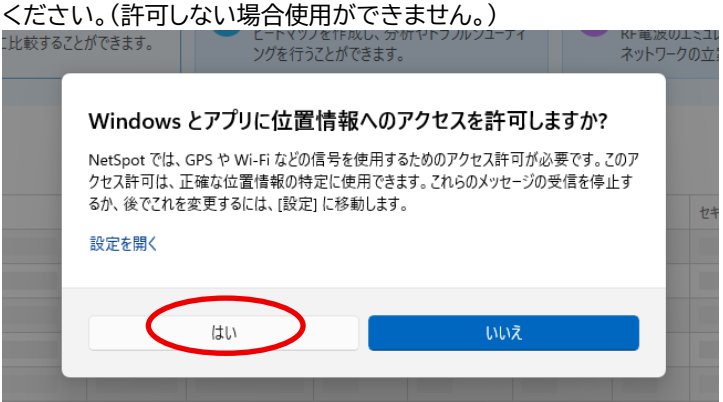




(6) 以下の画面が表示されたらインストールは完了です。初回はアクティベーションが必要です。「開始」をクリックしてください。



※ 万一以下のメッセージが表示された場合は位置情報へのアクセスを許可してください。(許可しない場合使用ができません。)



(7) 「アクティベーションコードを入力する」をクリックしてください。



(8) アクティベーションコードを入力し、「アクティベート」をクリックしてください。



※ アクティベーションコードは、パッケージ版は同梱されている『お客様控え』に、ダウンロード版ではご購入時のメールに記載してあります。

※ 全角文字でご入力された場合は正しく認証されませんのでご注意ください。
全角文字× ＡＢＣＤＥａｂｃｄｅ１２３４５
半角文字○ ABCDEabcde12345

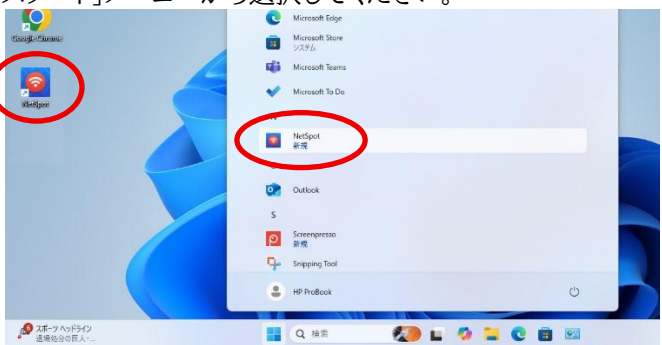
(9) 認証が成功すると、以下の画面になります。「NetSpot を試す」をクリックしてください。



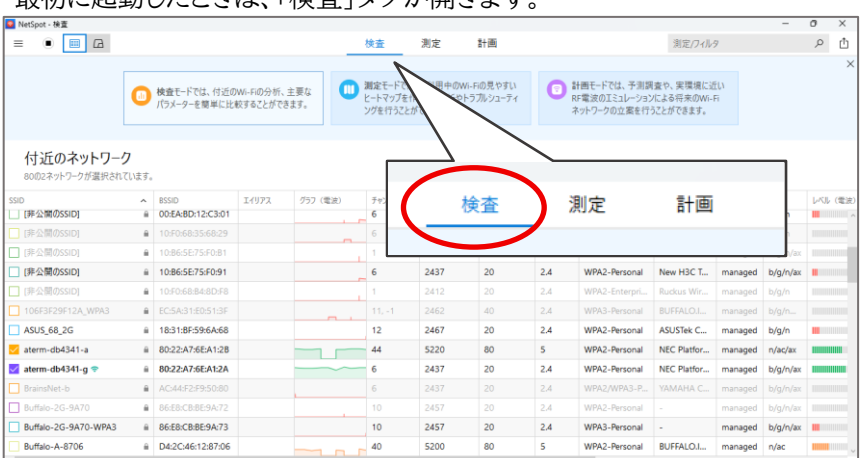
以上でインストールとアクティベーションは完了です。

2-2 起動方法、操作画面

NetSpot を起動するには、デスクトップのアイコンをダブルクリックするか、「スタート」メニューから選択してください。



最初に起動したときは、「検査」タブが開きます。

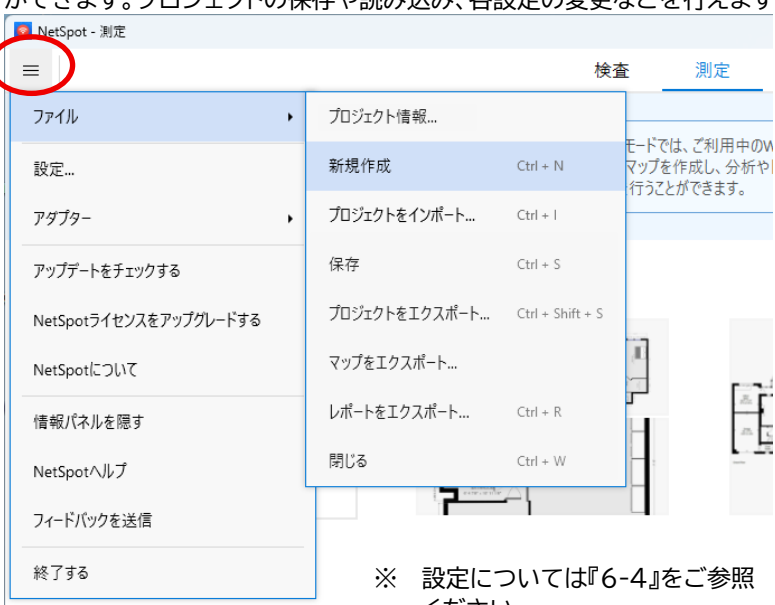


【検査】
既存の Wi-Fi 環境を詳しく調べることができます。
詳細は『第3章』をご参照ください。

【測定】
環境を実際に測定し、測定したデータを元にヒートマップを作製することができます。状況を視覚化することで、改善や効率化が容易になります。詳細は『第4章』をご参照ください。

【計画】
これから Wi-Fi を設置するにあたり、詳細なモデリングを行うことができます。時間や労力を節約して効果的なネットワーク環境の構築にお役立ていただけます。詳細は『第5章』をご参照ください。

※ それぞれのタブから、左上の ☰ をクリックし、メニューを表示することができます。プロジェクトの保存や読み込み、各設定の変更などを行えます。

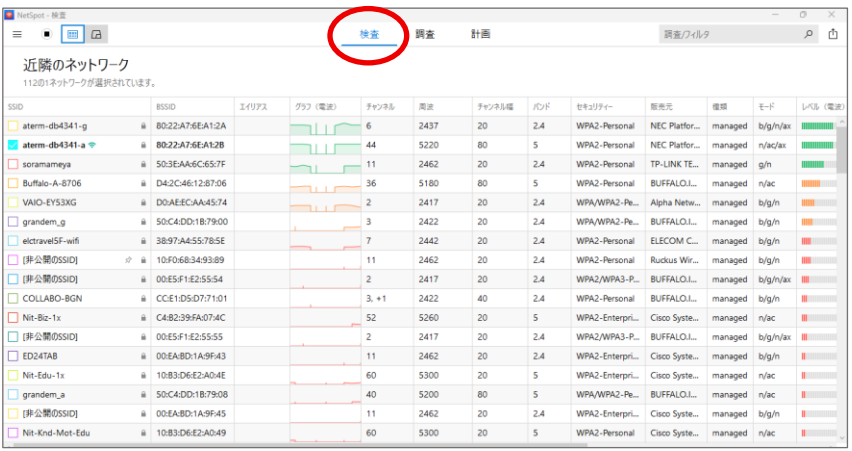


※ 設定については『6-4』をご参照ください。

第3章　検査

「検査」タブをクリックすると、現在ご利用の PC で検出可能な無線ネットワークが自動的に一覧で表示されます。

信号の強さ、周波数帯、802.11 のモード、混雑状況、使用されているセキュリティなど、様々な情報を得ることができます。



※　使用されている用語については、ホームページ上の「よくある質問」もご参照ください。
【検査モードで使用される用語について】
https://www.lifeboat.jp/support/db/017251223001.html

- SSID（Service Set Identifier）
  WiFi ネットワークの名前です。セキュリティー等の都合で非公開になっている場合もあります。

- BSSID(Basic Service Set Idenrifier)
  無線 LAN のアクセスポイント(AP)の識別子です。通常は MAC アドレス(ハードウェアの個体番号)です。

- エイリアス
  Wi-Fi ネットワークに別名が設定されている場合は表示します。

- チャンネル
  Wi-Fi 信号は複数のチャンネルに分割されており、高速道路の車線に似ています。チャンネルの選択によっては、他の信号との干渉を引き起こすことがあるため、重複しないチャンネルを選択することが重要です。

- バンド(周波数帯)
  WiFi ネットワークの多くは 2.4 GHz と 5 GHz、6GHzになります。最近のルーターでは複数のバンドをサポートしています。2.4 GHz バンドは長い間使用されているため、混み合っていることがあります。

- セキュリティ
  Wi-Fi の暗号化方式が表示されています。(WPA2、WPA3 等)

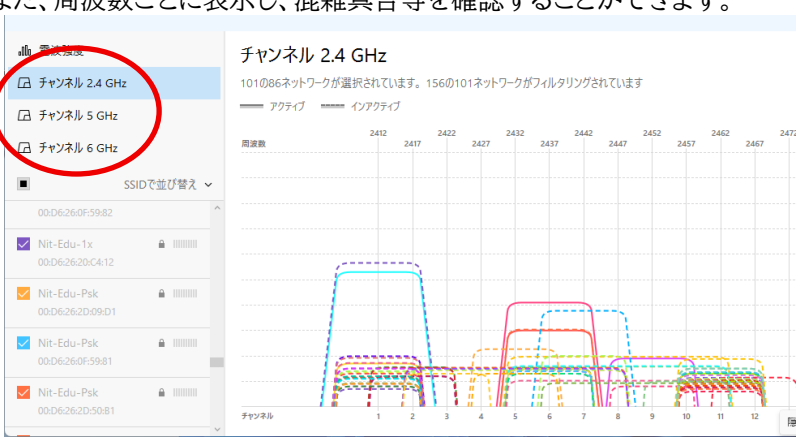
- モード
  Wi-Fiの通信規格IEEE802.11 のモードです。2.4 GHzではb、g 、5GHz では a、ac が使用され、 両方の周波数で n/ax が使用されています。

- 電波/平均/最大/最小 (RSSI)
  受信信号の強度を表し、マイナスの数値で表示されます。単位は dBm(デシベルミリワット)です。一般に RSSI(Received Signal Strength Indicator)とよばれます。0 に近いほど強く、-70dBm より強いと通信可能、-80dBm を下回ると不安定になるといわれます。

のアイコンをクリックし「電波強度」を選択すると、特定のネットワークを30 分、1時間と継続的に信号を測定し、信号が途切れる場所や時間帯がないかどうかなどを、グラフで確認することができます。複数の Wi-Fi をピックアップして比較表示できます。



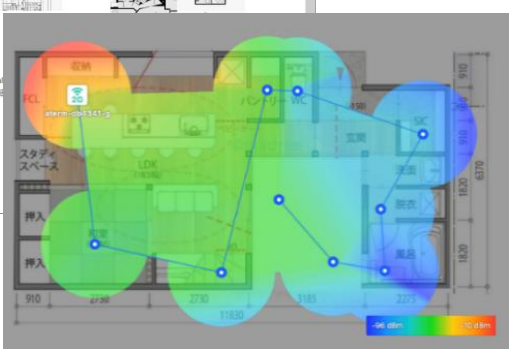
また、周波数ごとに表示し、混雑具合等を確認することができます。



第4章　測定

「測定」タブでは、現地の Wi-Fi 環境をさまざまな項目で測定し、視覚化することができるツールです。
測定したデータをもとにヒートマップが作成されるため、電波状況をあらゆる面から把握することができます。





- 測定しながらデータを記録しますので、測定モードを使用するには NetSpot をノート PC やモバイル PC で立ち上げてください。
- 現地を測定し記録しますので、調査したい建物の図面をご用意いただきますとスムーズです。256 x 256 ピクセル以上の画像をご用意ください。（図面がない場合は、製品上で簡略的な作図も可。）
- 図面ファイルは、PDF、PNG、JPG、BMP、GIF のいずれかでご用意ください。

1 つのプロジェクトで、建物の 1 階と 2 階を分けて測定したり（ゾーン分け）、同じ場所を条件を変えて複数回測定して記録することができます（スナップショット）。ゾーン分けとスナップショットの詳細は『4-2』をご参照ください。

また、測定結果のレポートを作成したり、データをエクスポート／」インポートして使用することができます。詳細は 第6章をご参照ください。

4-1 測定

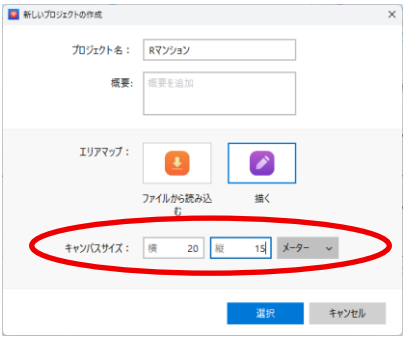
(1) 測定を開始するには、「測定」タブを開き、「＋」をクリックしてください。



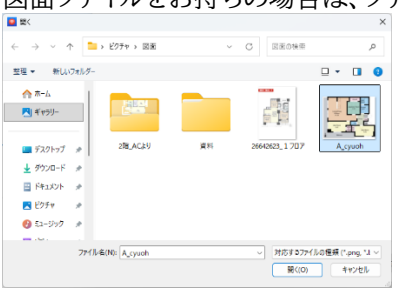
(2) わかりやすいプロジェクト名をつけ、図面をお持ちの場合は「ファイルから読み込む」をクリックし、お持ちでない場合は「描く」を選択してください。



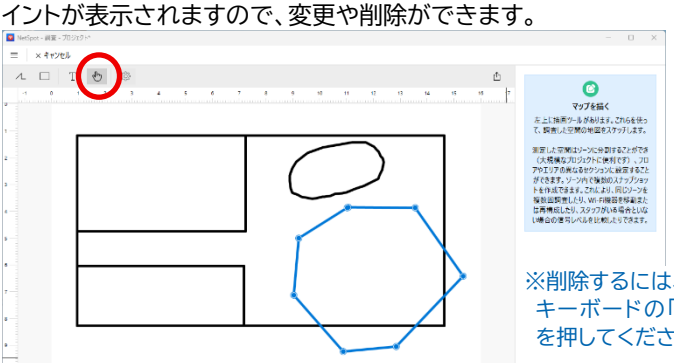
※ 「描く」を選択した場合は、大まかな規模を設定するため、キャンバスサイズを指定してからお進みください。



(3) 図面ファイルをお持ちの場合は、ファイルを選択してください。

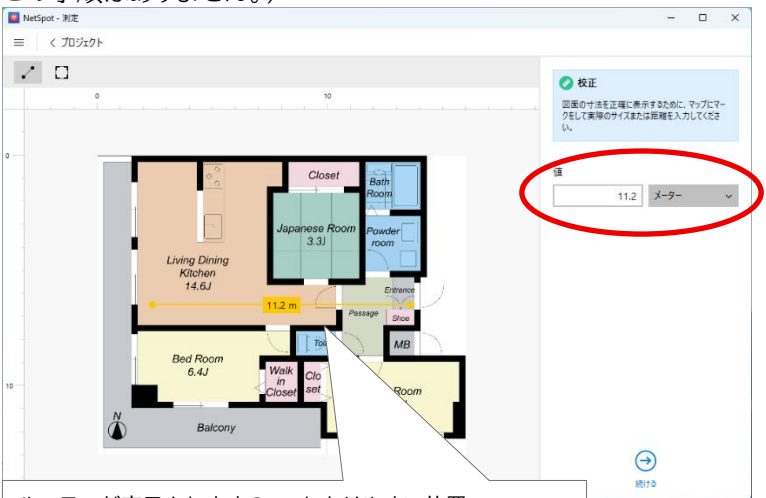


※ 図面を描く場合は、長方形と直線のみのごく簡易なツールとなりますが、概略を作成してください。 のアイコンを選択してから図形を選択すると、ポイントが表示されますので、変更や削除ができます。



※削除するには、選択後にキーボードの「DEL」キーを押してください。

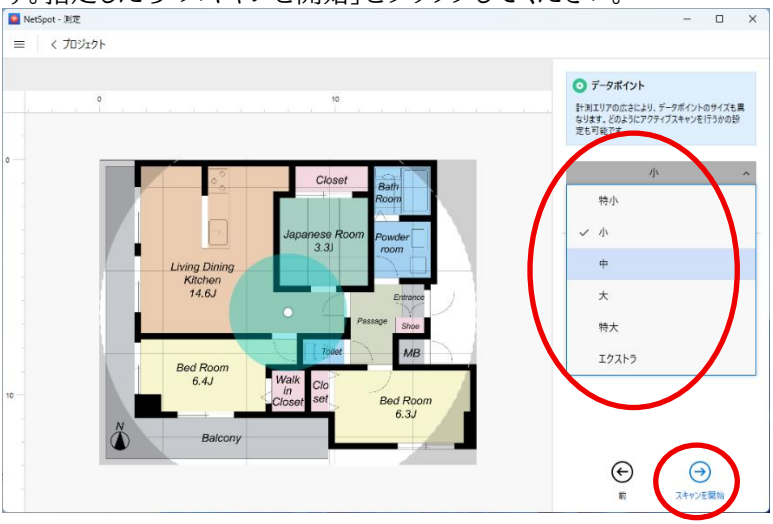
(4) 読み込めましたら大まかなサイズを入力してください。(作画した場合はこの手順はありません。)



(5) 数値を入力したら「続ける」をクリックします。



(6) 測定する空間の規模に合わせて、データポイント(1 回の測定範囲)のサイズを指定します。このサイズで測定しながら移動し、測定を繰り返します。指定したら「スキャンを開始」をクリックしてください。

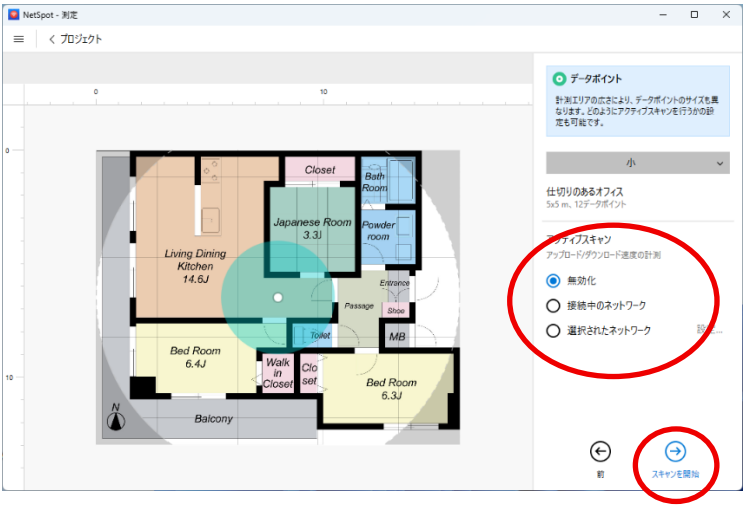


※ 調査する空間が広いほど大きなポイントを選択しますが、間仕切りが多い場合は小さめのサイズを選択し、測定を多めに行うほうがより正確な結果を得られます。

※ 1つのマップ上で測定できる回数(データポイント数)は、Pro 版では 500、Enterprise 版では無制限です。

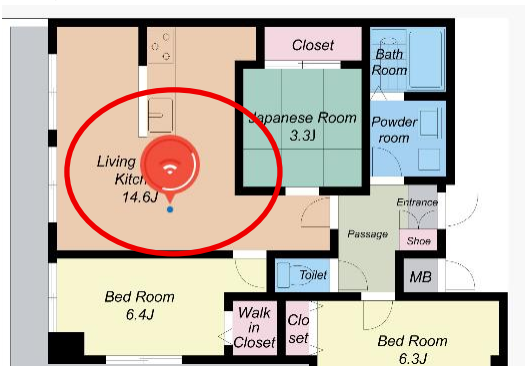
※ データポイントの大きさは下記を目安に選択してください。
特小 3m×3m 小さいオフィス、アパートの一室等
小 5m×5m 仕切りのあるオフィス
中 12m×12m 開けた広い屋内、広いオフィス等
大 15m×15m 市街地の一角、限られた範囲の屋外
特大 30m×30m 住宅街
エクストラ 60m×60m 開けた広い屋外

(7) アクティブスキャンは、特定のネットワークを選択して、ダウンロード/アップロード速度を測定する機能です。
アクティブスキャンは、測定中にも ON/OFF できるため、よくわからない場合は「無効化」のままお進みください。

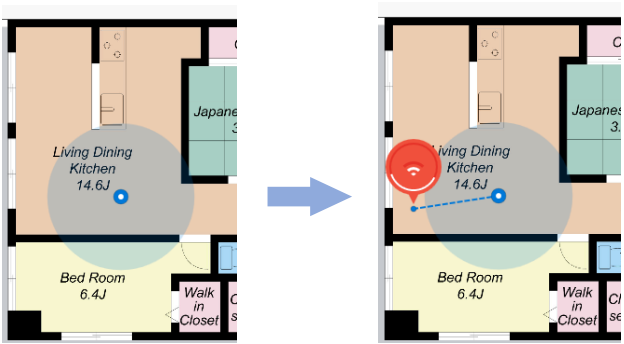


※ アクティブスキャンの詳細は『4-3』をご参照ください。

(8) 測定を始めます。図面上で、現在いる場所をクリックしてください。赤く Wi-Fi マークが点滅している間は測定中ですのでその場でお待ちください。



(9) 赤い点滅がなくなり、青い点になったら1ポイント測定終了です。次の任意の場所に移動し、図面上の位置をクリックしてください。同様に測定が始まります。



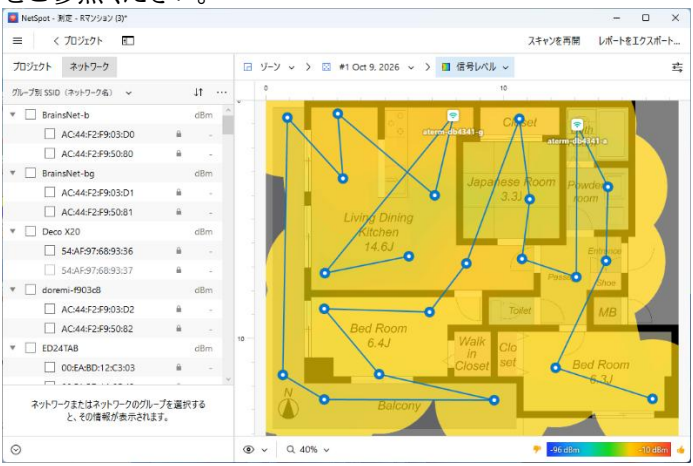
※ 1つのマップ上で測定できる回数(データポイント数)は、Pro 版では 500、Enterprise 版では無制限です。

※ 直線的ではなくギザギザに移動して、範囲内をくまなく計測することをお勧めします。部屋の四隅を満遍なくカバーしたあと中心に移動するなど、全ての範囲を網羅した計測ポイントを指定してください。

(10) 満遍なく測定が終わりましたら、「ヒートマップ」をクリックしてください。



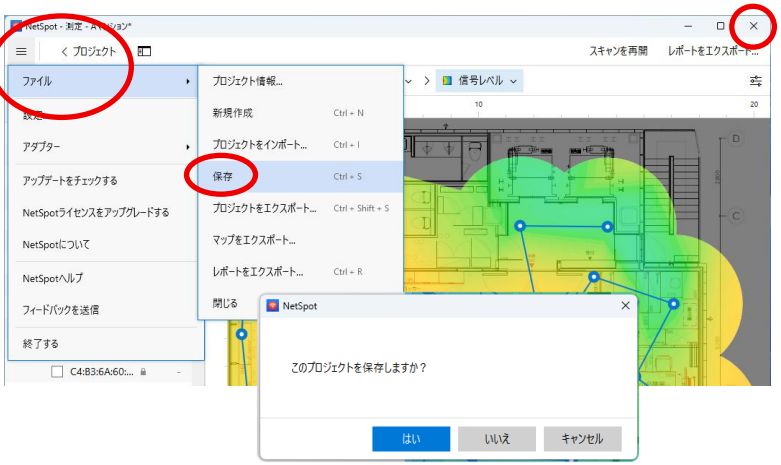
(11) ヒートマップが表示され、結果が視覚化されます。信号レベルだけでなく、さまざまな項目の結果を視覚化することができます。詳細は『4-4』をご参照ください。



※ 測定結果はレポートとして出力することができます。詳細は『6-1』をご参照ください。

※ 別の階を測定したり、同じ場所を条件を変えてもう一度測定したい場合は、『4-2』をご参照ください。

(12) あとで続きを行う場合など、プロジェクトを保存したい場合は、左上の ☰ から「ファイル」 - 「保存」をクリックしてください。



※ 「×」で画面を閉じるか、「プロジェクト」をクリックした場合も、保存ダイアログが表示され保存できます。

4-2 ゾーン分け、スナップショット追加

1 つのプロジェクトで、建物の1階と2階を分けて測定したり、同じ場所を条件を変えて測定して記録することができます。

- ゾーン
  調査対象の1階、2 階などの各階は、別のゾーンとして分け、それぞれ測定することができます。室内と駐車場のように離れた場所も、別のゾーンに指定できます。



ゾーン1（1 階）



ゾーン 2（2 階）



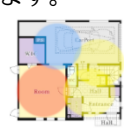
ゾーン 3（駐車場）

- スナップショット
  1つのゾーンで条件を変えて測定し、スナップショットとして保存することができます。時間帯を変えて測定したり、機器や家具の位置を変えたり、人がいる場合といない場合などの比較、窓を開けているといった小さな要因でも結果に違いが現れることがあります。



ゾーン1（1 階）

スナップショット1
（測定 1 回目）



スナップショット 2
（測定 2 回目）



スナップショット 3
（測定 3 回目）

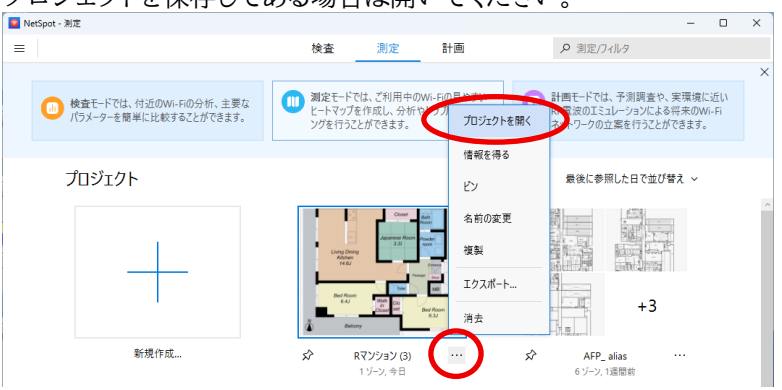


※ 作成可能な数は、それぞれ下記の通りです。

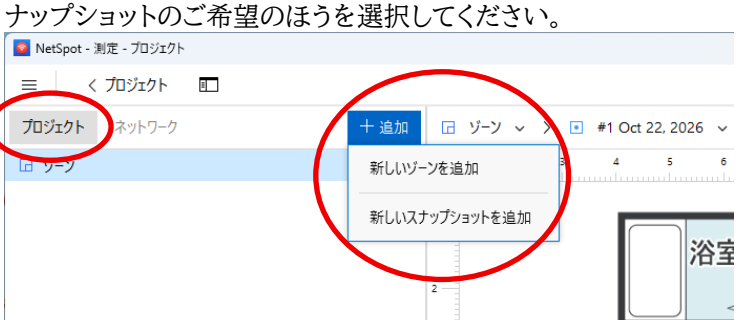
	Pro 版	Enterprise 版
1プロジェクトで作成可能なゾーン数	50	無制限
1ゾーンに作成可能なスナップショット数	50	無制限
1スナップショットに配置可能なデータポイント数	500	無制限

ゾーン、スナップショットを作成する手順は下記の通りです。

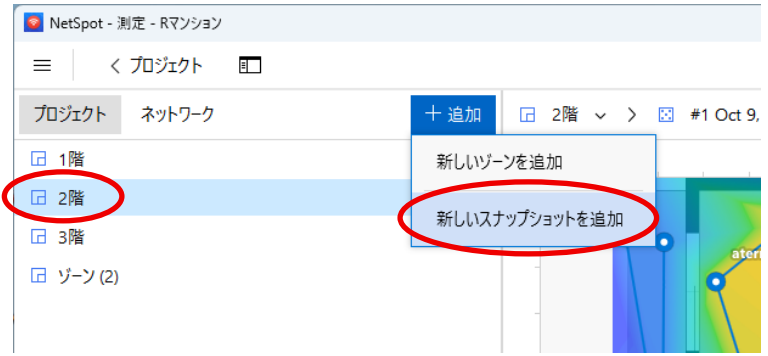
(1) 『4-1』の手順でプロジェクトを開始し(8)まで手順を進めます。または、プロジェクトを保存してある場合は開いてください。



(2) 「プロジェクト」タブを開き「＋追加」をクリックします。新しいゾーン、スナップショットのご希望のほうを選択してください。

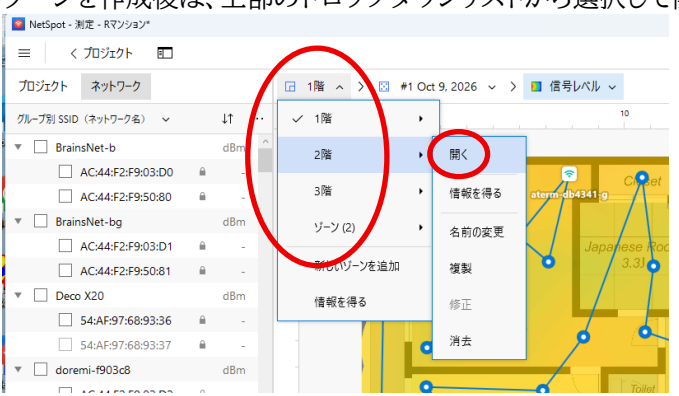


※ スナップショットを追加する場合は、どのゾーンのスナップショットかを選択してから追加してください。

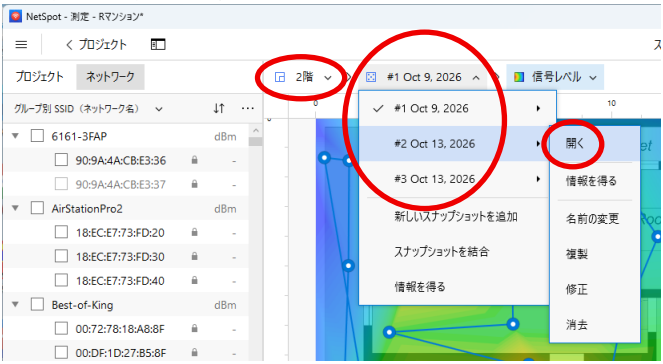


(3) ゾーンを追加する場合は、図面を追加する画面が表示されます。図面を選択または作画し、『4-1』(2)～ の手順と同様に進めて測定を行ってください。
スナップショットを追加する場合は、測定の画面が表示されます。『4-1』(8)～ と同様の手順で 2 回目の測定を開始してください。

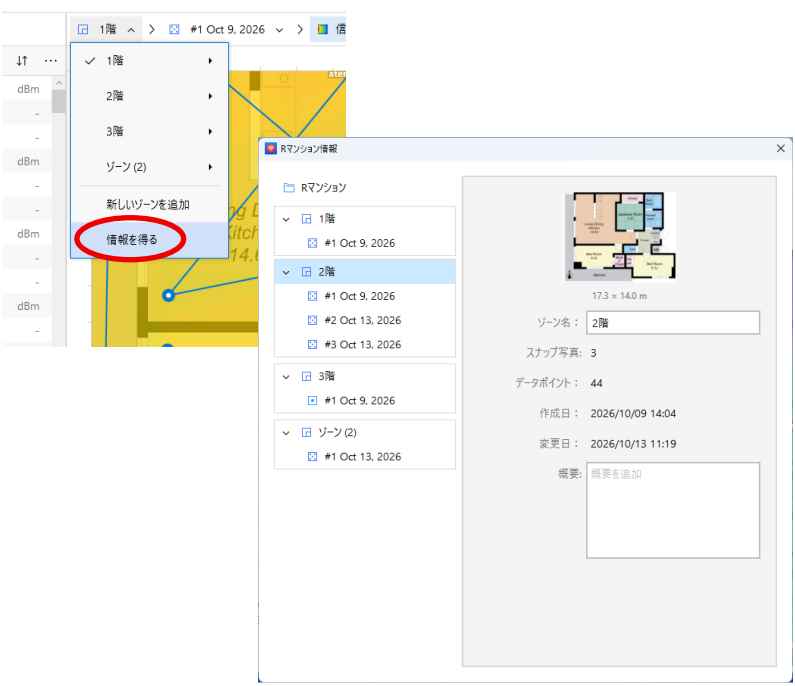
(4) ゾーンを作成後は、上部のドロップダウンリストから選択して開けます。



(5) スナップショットは、ゾーンを選択したあとに隣のドロップダウンリストから選択してください。

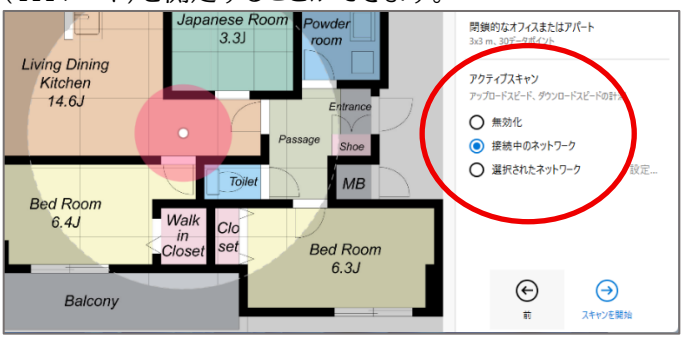


「情報を得る」をクリックすると、プロジェクト全体のゾーン、スナップショットの構成を確認できます。



4-3 アクティブスキャン

特定のネットワークを選択して、ダウンロード/アップロード速度、送信速度（TX レート）を測定することができます。

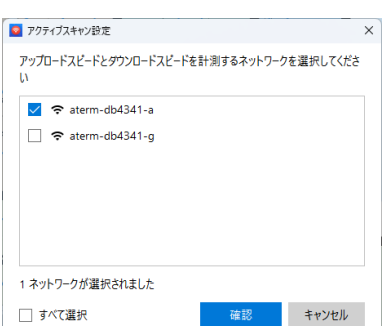


各データポイントでのスキャン時に、ダウンロード/アップロード速度を追加して測定します。その分スキャン時間が長くなりますので、一度に一つのネットワークを選択して測定することを推奨します。

※ 通常のスキャンが終わったあとにアイコンが変わり、続けてアクティブスキャンを行います。

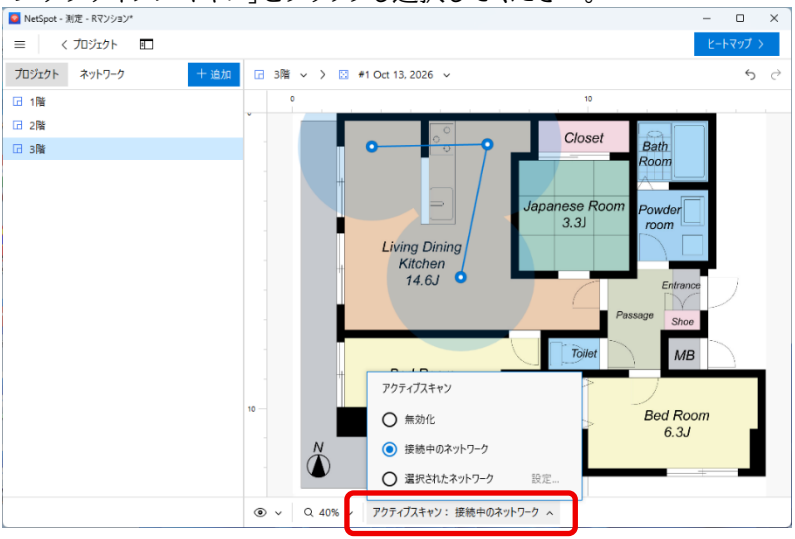
通常スキャン中のアイコン → アクティブスキャン中のアイコン

「選択されたネットワーク」をクリックすると測定可能なネットワークが表示されます。測定時は、現在の接続を切って、選択したネットワークに接続しますのでご注意ください。



スキャンしたいネットワークがリストにない場合は、NetSpot を終了し、ご希望のネットワーク（Wi-Fi）に接続してから、再度お試しください。

測定の途中で、アクティブスキャンをオン/オフすることもできます。画面下部の「アクティブスキャン」をクリックし選択してください。



※　アクティブスキャンの設定は『6-4』(5)をご参照ください。

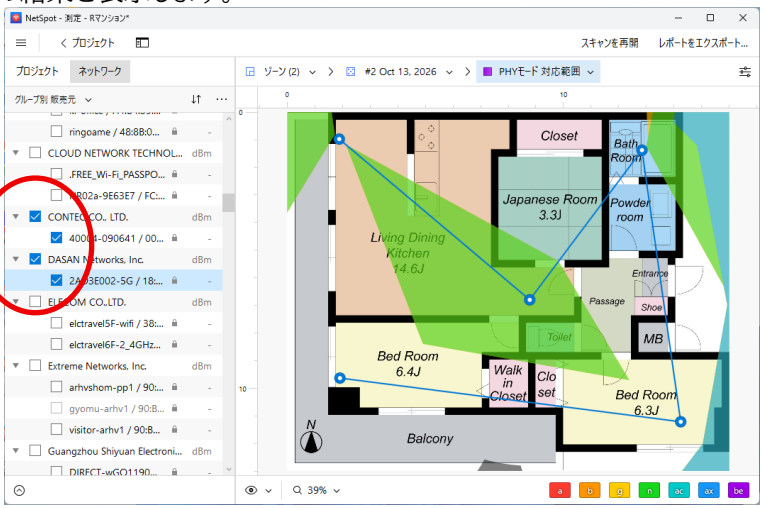
4-4 視覚化(ヒートマップ作成)について

電波レベルのほかに、様々な測定結果を視覚化して確認することができます。アクティブスキャンを実施した場合はその結果や、トラブルシューティングのための視覚化を行うことができます。

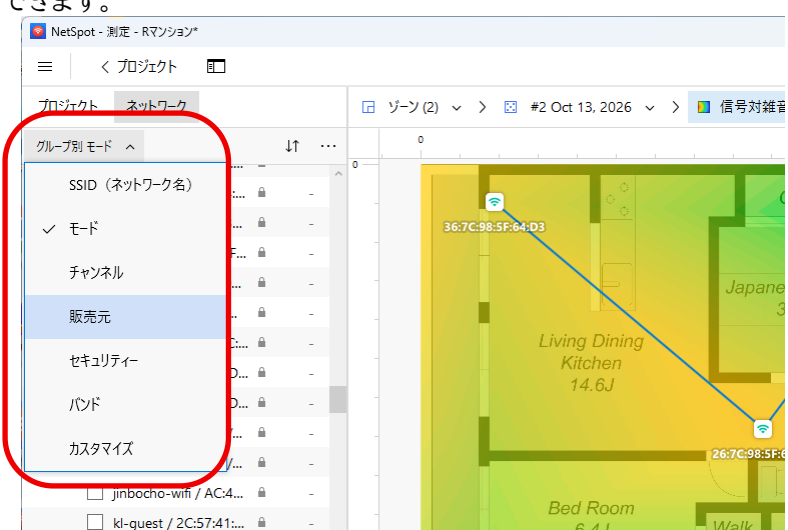


※現時点では、ノイズレベル(雑音レベル)、信号対雑音比(SNR)の測定は Mac 版のみで可能です。

結果を表示したいアクセスポイントにチェックを入れると、そのネットワークのみの結果を表示します。



アクセスポイントのリストは、メーカーやセキュリティの種類別などで並べ替えできます。



4-5 用語について

使用されている用語については下記の通りです。ホームページ上の「よくある質問」もご参照ください。

【測定モードで使用される用語について】
https://www.lifeboat.jp/support/db/017251224002.html

【通常のスキャン】

信号レベル
受信信号の強度を表し、マイナスの数値で表示されます。単位は dBm（デシベルミリワット）です。0 に近いほど強く、-70dBm より強いと通信可能、-80dBm を下回ると不安定になるといわれます。

信号対雑音比（SNR） Wi-Fi 信号と背景ノイズのレベルを比較します。ノイズは家電製品からの熱雑音やインパルスノイズを対象にしています。他の無線機器からの干渉は「信号対干渉比」で測定します。
ノイズの測定は、現時点ではMacでのみ可能です。

信号対干渉比 Wi-Fi 信号と他の無線送信機からの干渉レベルを測定します。

二次信号レベル その場所で検出された 2 番目に強い Wi-Fi 信号を調べます。メインの Wi-Fi が故障した場合などのバックアップ確保の目的があります。

ノイズレベル 各ポイントで検出された熱雑音、インパルスノイズを測定します。現時点ではMacでのみ測定可能です。

アクセスポイントの数 各ポイントで検出可能なアクセスポイントを表示します。

周波数帯域 対応範囲 2.4GHz、5GHz、6GHz 等の使用されている周波数帯を調べます。

PHY モード 対応範囲 Wi-Fi 規格 802.11 プロトコルのモード（a、b、g、n、ac、ax）を表示します。

【アクティブスキャン】

ダウンロード速度　インターネットから情報をダウンロードできる速度。Mbps（メガビット/秒）

アップロード速度　各デバイスからインターネットへ情報をアップロードできる速度。Mbps（メガビット/秒）。

TX レート　AP から無線デバイスへのデータ送信の速度。（Transmit Rate）受信速度は RX レート（Receive Rate）です。

Iperf3 アップロード/ダウンロード　Iperf3は、サーバー、クライアント間のパフォーマンスを測定したり、調整するためのオープンソースのツールです。HTTP、TCP、または UDP 経由の速度を測定します。

【トラブルシューティング】

トラブルシューティングのヒートマップでは、信号レベルや重複チャンネルなどそれぞれの項目について、問題のある領域を赤、注意が必要な領域を黄色、正常な領域を緑で表示します。
問題のある領域を明確に、スムーズに把握することができます。

第5章　計画

計画タブでは、これから設置するWi-Fiを幅広くモデリングすることができます。
配置予定の空間のレイアウト(壁、ドア、窓等)や材質、部屋の広さ、Wi-Fi のアクセスポイントのタイプなどのデータを入力し、予想ヒートマップを作成することができます。
新バージョンでは、水平方向だけでなく、ビルの地下から最上階まで垂直方向にもモデル化できるようになりました。
可視化することで、必要なハードウェアや改善点を見つけることが容易になり、時間や労力を大幅に節約することができます。

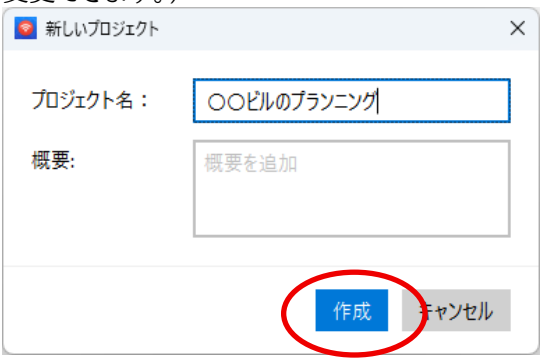
作成したプランのレポート出力、データをエクスポート／インポートして使用する手順は第6章をご参照ください。

5-1　プランニング

(1)　プランニングを開始するには、「計画」タブを開き、「＋」をクリックしてください。



(2) わかりやすいプロジェクト名をつけ、「作成」をクリックします。(あとから変更できます。)



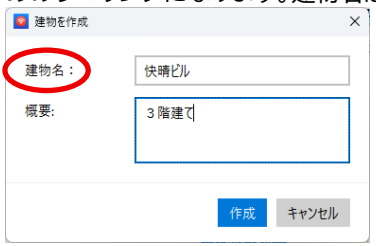
(3) 複数階か、1 階建てかを選択してください。



※ 1階層を選択した場合は、垂直方向のモデリングは行えません。

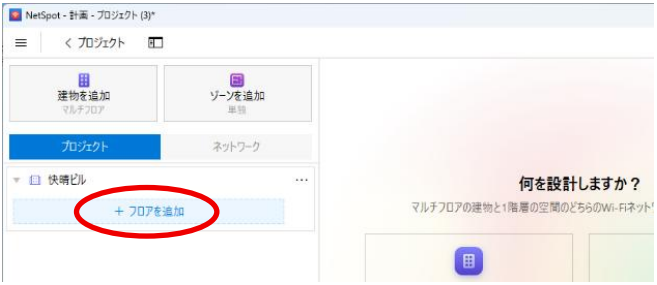
※ 複数階の場合、必ずしも 1 階から作成する必要はありません。(各階のデータは完成後に並べ替えが可能です。)

※ 「マルチフロアの建物」を選択した場合は、「建物名」を付ける画面が表示されます。1 つのプロジェクトに複数の建物を作成することができるため、そのためのラベリングになります。建物名はあとから変更できます。





(4) 「フロアを追加」をクリックしてください。



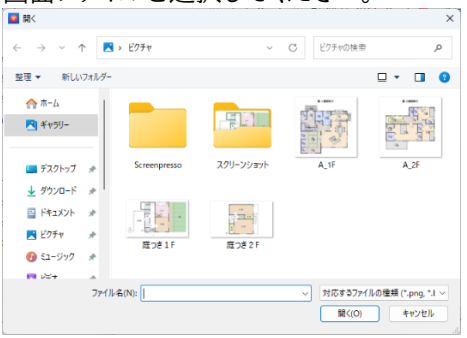
(5) 図面をお持ちの場合は「ファイルから読み込む」をクリックし、お持ちでない場合は「空のキャンバス」を選択してください。
「空のキャンバス」を選択した場合は、建物の大きさに合わせてキャンバスのサイズを指定し(8)へおすすみください。



ゾーン名(フロア名)は
あとから変更できます。

「空のキャンバス」を選択した場合は、キャンバスのサイズを指定してください。

(6) 図面ファイルを選択してください。



(7) 読み込めましたら大まかなサイズを入力し、「続ける」をクリックしてください。



ルーラーが表示されますので、わかりやすい位置を指定して、右側の枠内に長さをご入力ください。

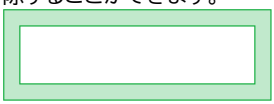
(8) 左上のアイコンを使用し、現実の環境に合わせて壁や窓の位置、材質等を指定してください。色を指定するとわかりやすくなります。



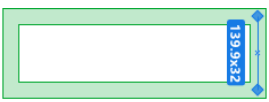
	選択ツール	オブジェクトを選択し移動、削除などができます。
	壁	始点と終点をクリックして指定できます。
	四角い壁	
	窓	
	ドア	
	棚	
	定規	始点と終点をクリックすると、長さを測れます。
	直前の操作を取り消し、取り消しを戻すことができます。	

- 作図例

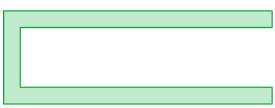
(四角い壁)で作図した場合、完成後は のアイコンで選択して、線分単位で削除することができます。



で四角を作成



を選択して壁の一部を選択



キーボードの Del キーで削除

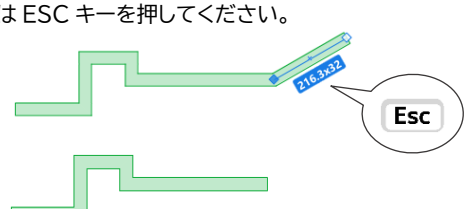


Shift + で、四角全体を指定できます。

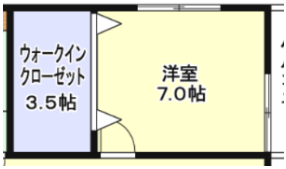
壁は、始点をクリック、終点はダブルクリックで指定できます。



終点をクリックして、続けて壁を作成できます。ダブルクリックで終了できなかったときは ESC キーを押してください。

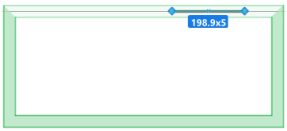


下記のような間取りでは、先に「四角い壁」を作り、あとから任意の場所に窓やドアを指定することができます。

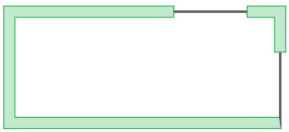




で四角い壁を作成

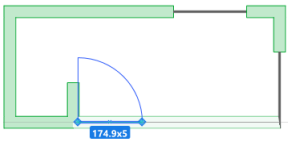


で任意の場所に窓を指定

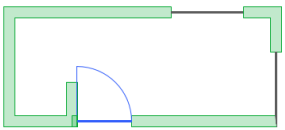




で壁を作成

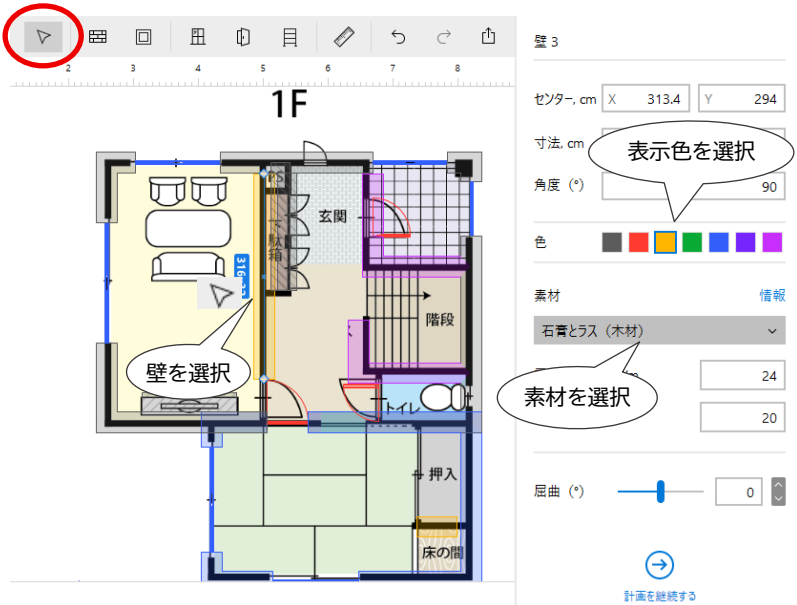


でドアを指定

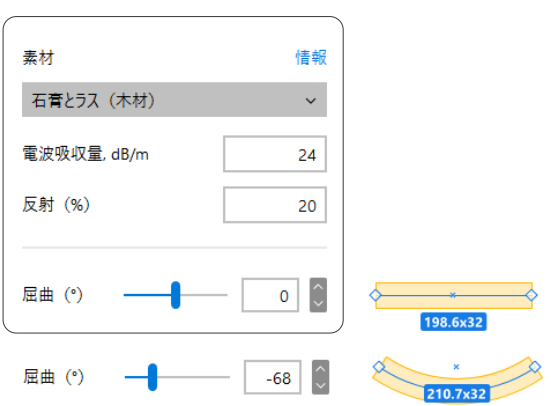


(9) オブジェクトの材質を指定してください。

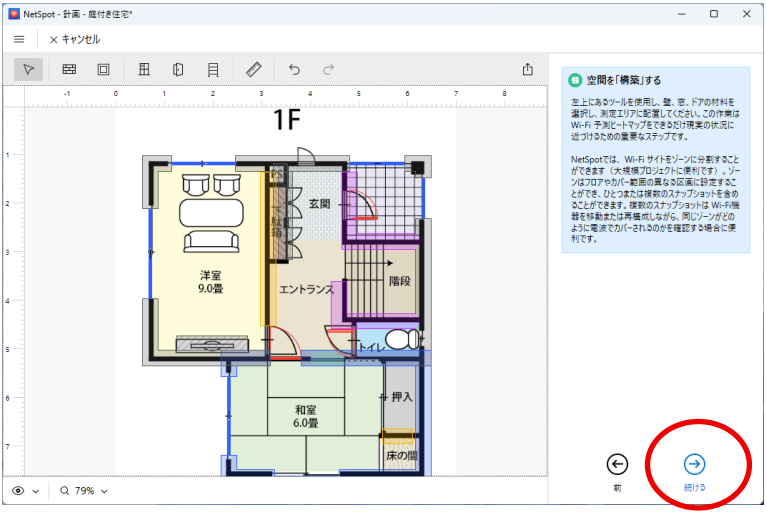
アイコンでオブジェクトを選択し、右側で素材を指定します。



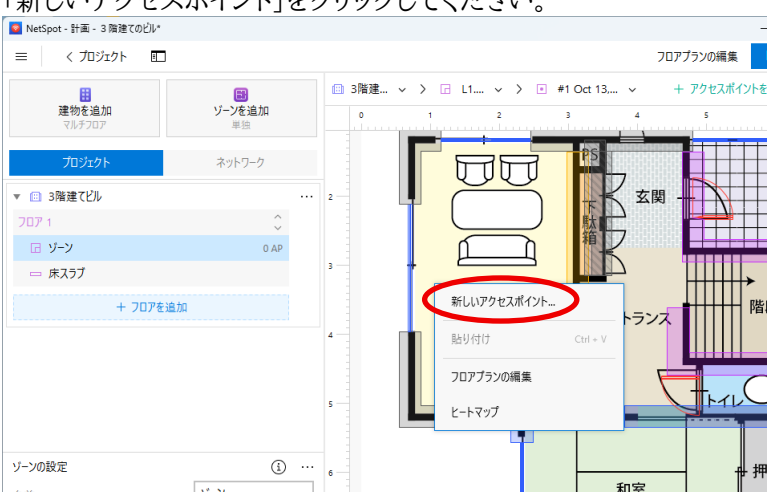
素材ごとに、電波吸収量や反射率、屈曲率を指定することもできます。



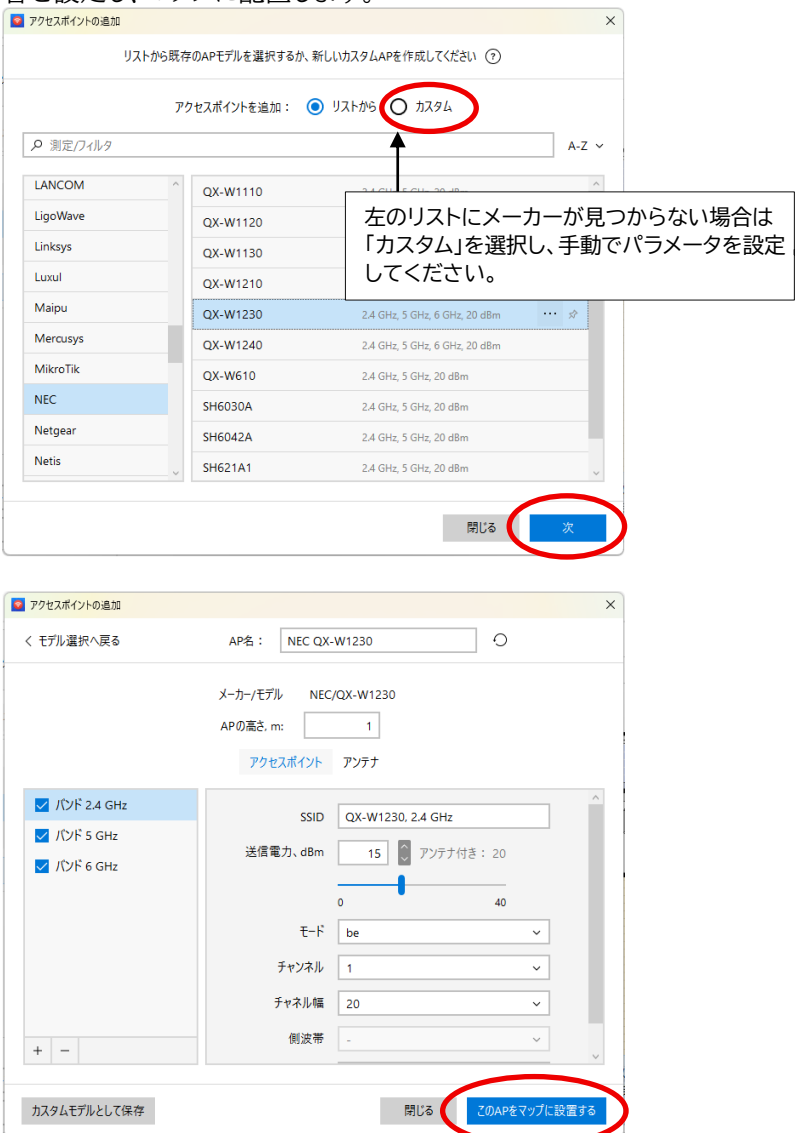
(10) 壁や窓、材質の指定がすべて終わったら「続ける」をクリックします。



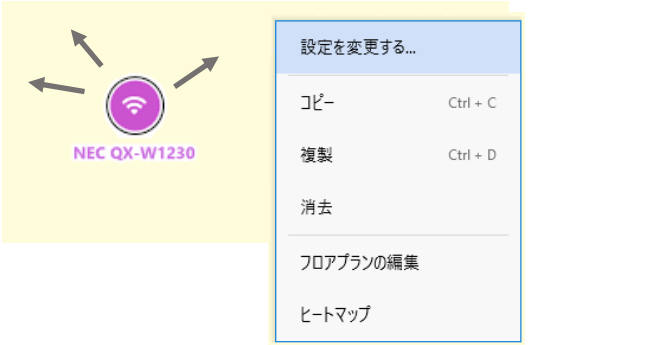
(11) ダミーのアクセスポイントを配置します。配置したい場所をクリックし、「新しいアクセスポイント」をクリックしてください。



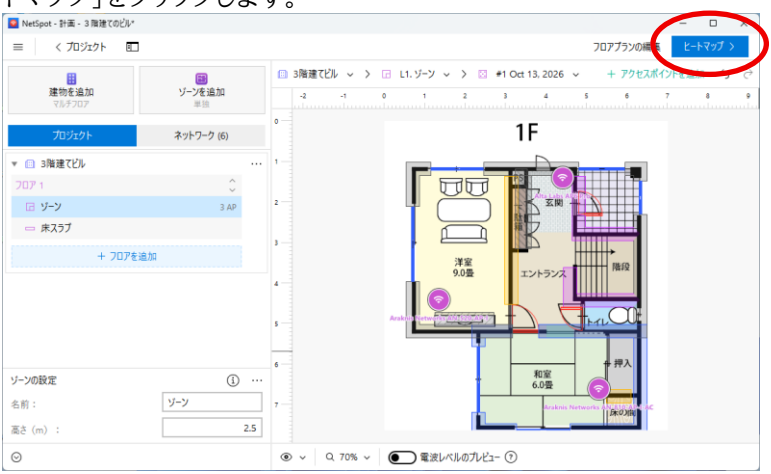
(12) アクセスポイントのメーカーやベンダー、強度等、シミュレートしたい内容を設定し、マップに配置します。



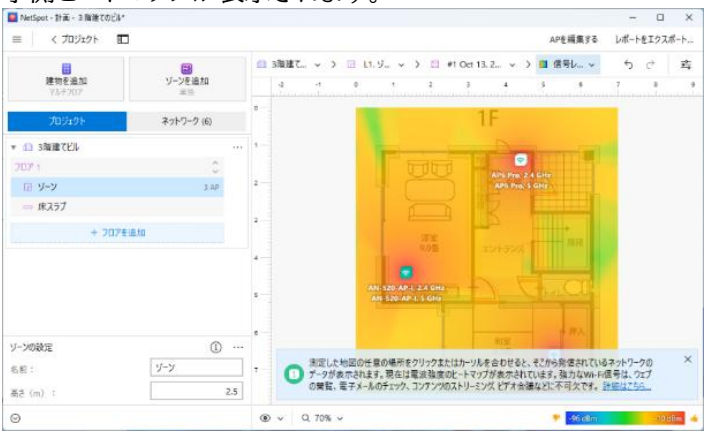
※　アクセスポイントは、配置後もドラッグして位置を移動できます。アイコンをクリックすると設定を変更したり、複製して配置することもできます。



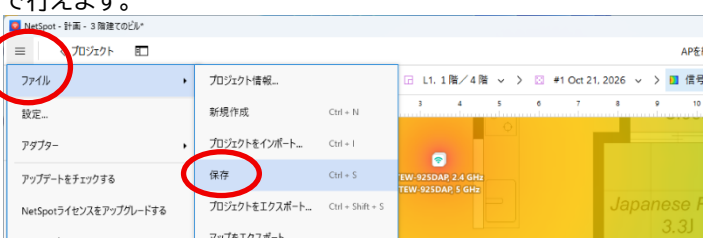
(13) 必要な分だけアクセスポイントを配置してください。配置できたら「ヒートマップ」をクリックします。



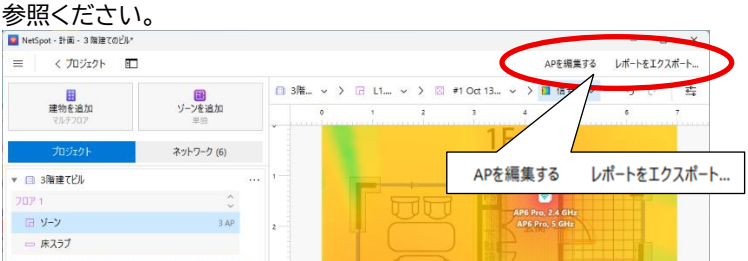
(14) 予測ヒートマップが表示されます。



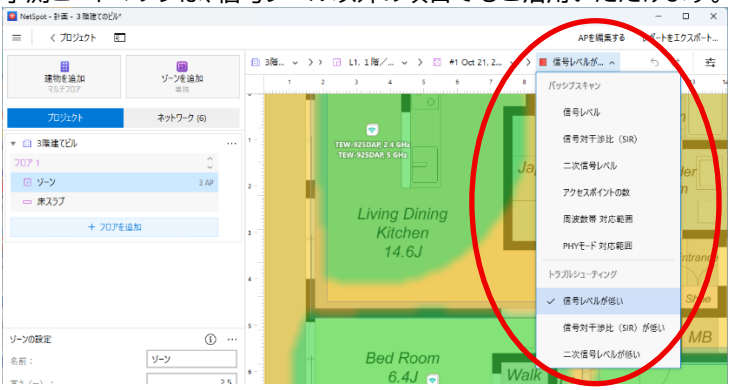
※ 結果を一時保存する場合は、左上の ≡（メニュー）から「ファイル」 - 「保存」で行えます。



※ 「AP を編集する」をクリックするとアクセスポイントを再配置してやり直すことができます。レポートの作成やデータのエクスポートの詳細は、第6章をご参照ください。



※　予測ヒートマップは、信号レベル以外の項目でもご活用いただけます。



(15) 続けて他のフロアを追加するには『5-2』をご参照ください。
庭や駐車場など、フロアを指定せずに他のゾーンを追加したい場合は『5-4』、別棟（別の建物）を追加するには『5-5』をご参照ください。



他のフロアを追加する
→『5-2』

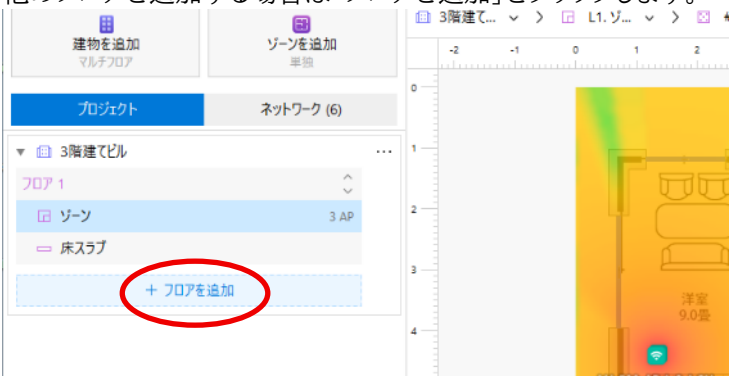
別の建物を追加する
→『5-5』

フロアや建物と関連しない
別のゾーンを追加する
→『5-4』

5-2 他のフロアを追加する、床の設定

1 階建てのプランニングや、初めてプランニングを開始する場合は『5-1』をご参照ください。

(1) 他のフロアを追加する場合は「フロアを追加」をクリックします。

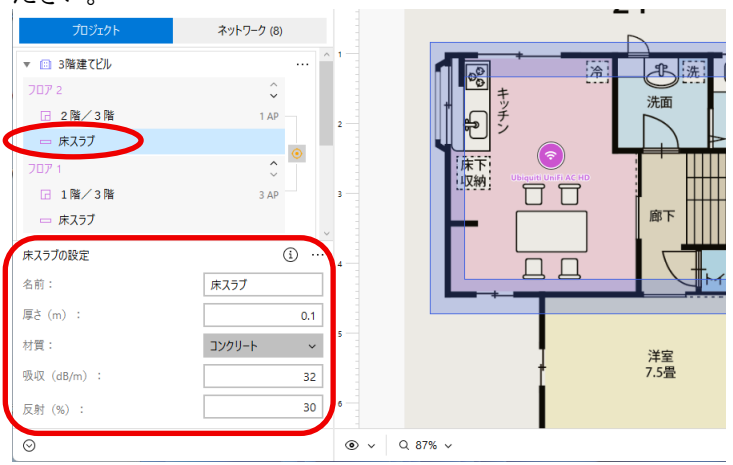


(2) 最初のフロアと同様、図面やサイズを指定する画面が表示されますので、初回と同様に画面にそって進めてください。



(3) 初回のフロアと同様に、壁や窓、材質を指定し、ご希望のアクセスポイントを配置します。

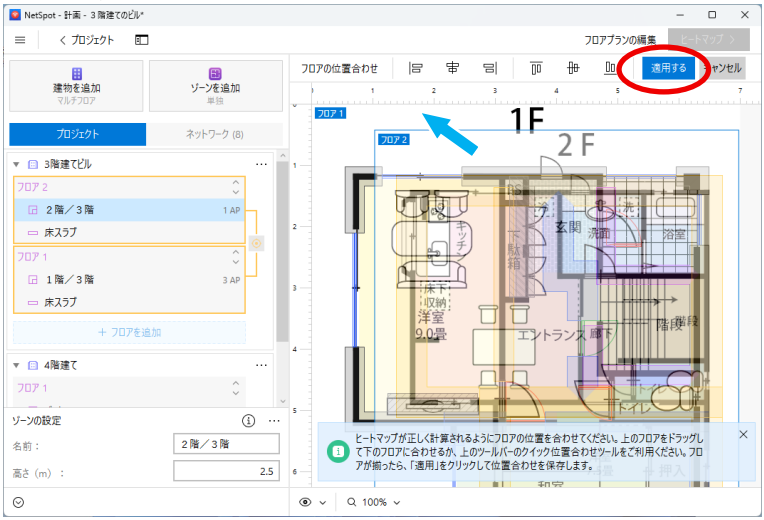
(4) 床の材質や厚さを指定する場合は「床スラブ」をクリックし、指定してください。



(5) 垂直方向のモデリングのため、初回のフロアと、追加したフロアの位置合わせをします。 をクリックしてください。

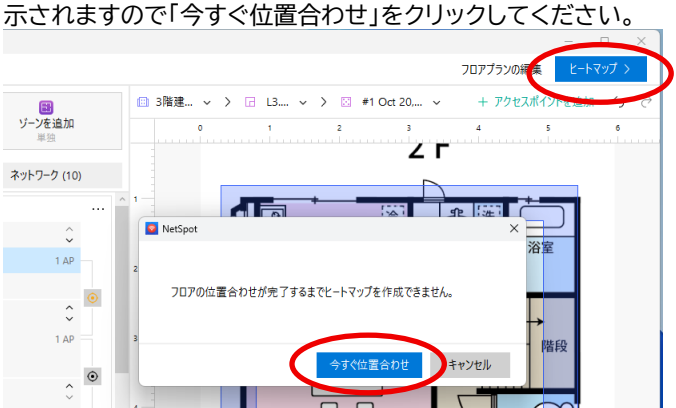


(6) 図面をドラッグして合わせます。よろしければ「適用する」をクリックしてください。

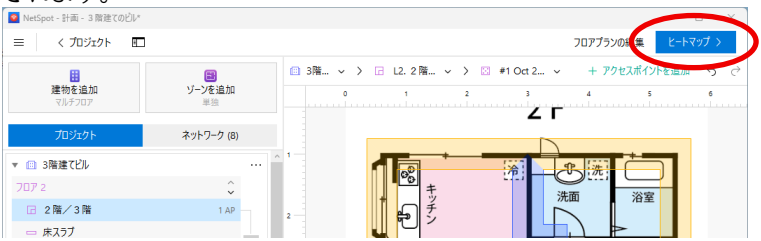


※ 一度確定したあとでも、 をクリックすると再調整できます。

※ 位置合わせをせずに「ヒートマップ」をクリックすると、以下のメッセージが表示されますので「今すぐ位置合わせ」をクリックしてください。



(7) 位置合わせ後、「ヒートマップ」をクリックすると予測ヒートマップが表示されます。



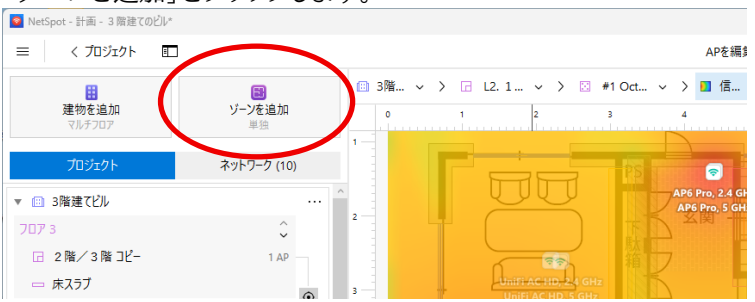
※ 左のリストからフロアをクリックすると、右側にデータが表示されます。
フロアを右クリックすると、データの修正やコピー、消去等を行えます。
階を並べ替えるときは▽△をクリックしてください。



5-3 ゾーンを追加する

庭や駐車場など、フロアを指定せずに他のゾーンを追加することができます。
初めてプランニングを開始する場合は『5-1』をご参照ください。

(1) 「ゾーンを追加」をクリックします。



(2) 図面やサイズを指定する画面が表示されます。
わかりやすい名称を付けて、画面にそって進めてください。



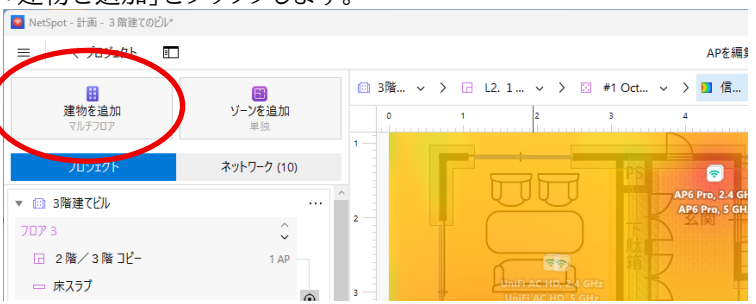
※ 「ゾーンを追加」で作成したデータは、左側のリストの下の方に「その他のゾーン」として表示されます。



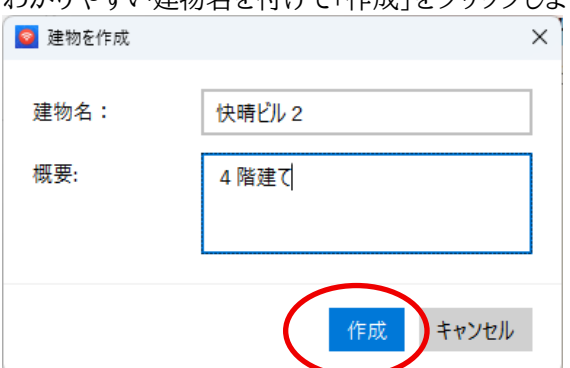
5-4 別の建物を追加する

一つのプラン内に複数の建物を追加することができます。
初めてプランニングを開始する場合は『5-1』をご参照ください。

(1) 「建物を追加」をクリックします。



(2) わかりやすい建物名を付けて「作成」をクリックします。



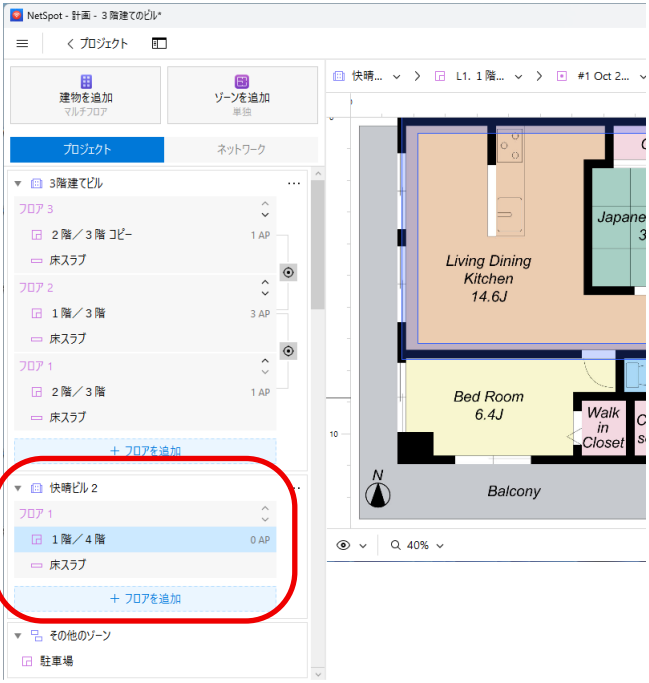
(3) 左側のリストに、作成した建物名が表示されますので、「フロアを追加」をクリックしてください。



(4) 図面やサイズを指定する画面が表示されます。わかりやすいフロア名を付けて、1 棟目と同様に進めてください。



※ 「建物を追加」で作成したデータは、左側のリストでは 1 棟目の下に表示されます。ドラッグすれば並べ替えもできます。

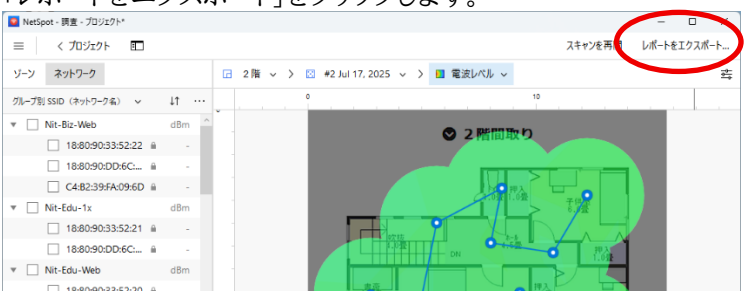


第6章 その他の操作

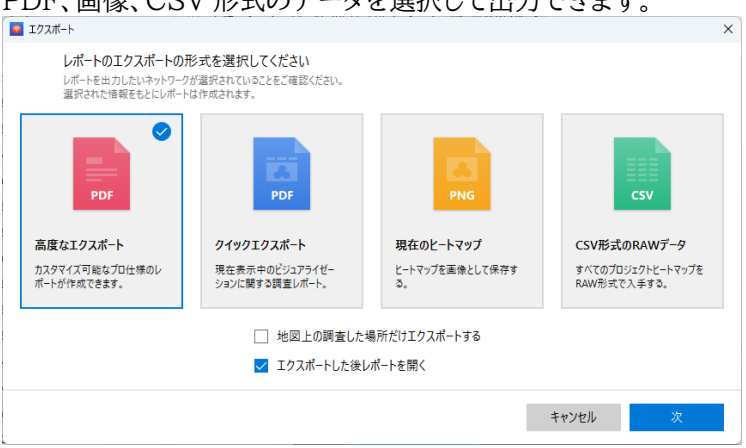
6-1 レポート出力

「測定」タブ、「計画」タブで作成したデータは、PDF ファイルや画像ファイルのレポートをエクスポートすることができます。

(1) 「レポートをエクスポート」をクリックします。

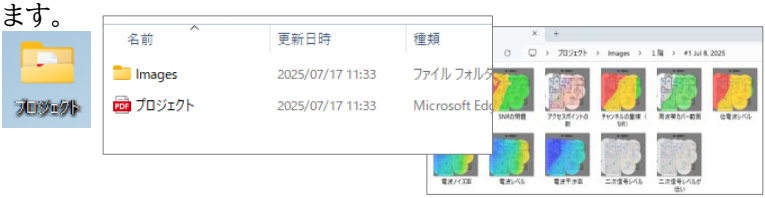


(2) PDF、画像、CSV 形式のデータを選択して出力できます。



レポートの内容は下記の通りです。

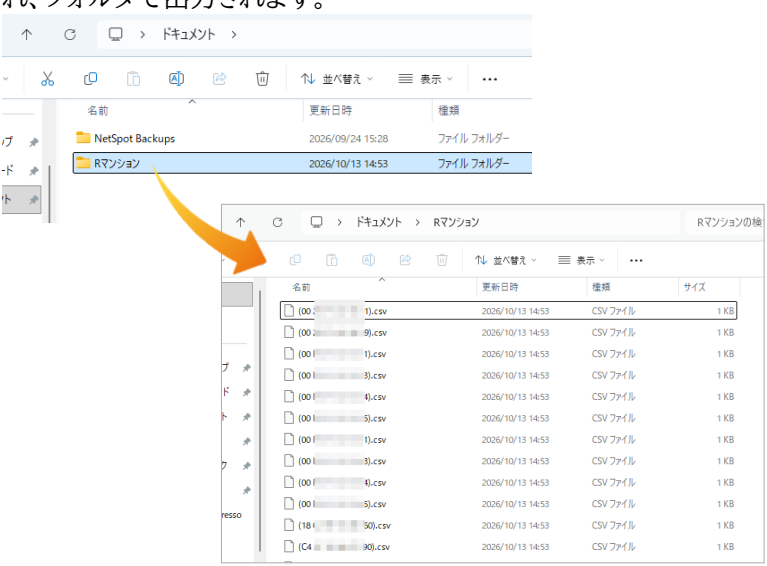
- 高度なエクスポート
  フォルダで出力されます。
  PDF のレポートと、全ゾーン、スナップショットの測定結果の画像を含みます。



- クイックエクスポート
  現在表示している画面の内容のみを、PDFファイルで出力します。

- 現在のヒートマップ
  現在表示しているヒートマップのみを画像（PNG）で出力します。

- CSV 形式の RAW データ
  選択したネットワーク（画面上でチェックを入れたネットワーク）のデータを CSV 形式で出力します。ネットワークごとに CSV ファイルが作成され、フォルダで出力されます。

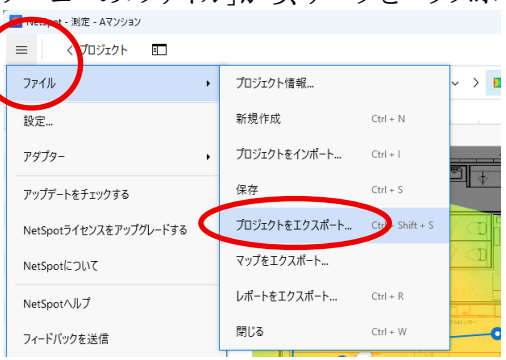


6-2 プロジェクトのエクスポート/インポート

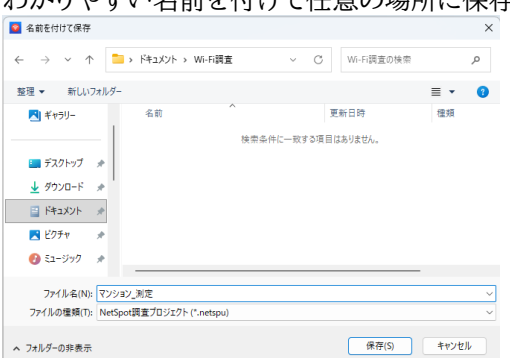
「測定」タブ、「計画」タブで作成したデータは、プロジェクト単位で独自の形式でエクスポート/インポートすることができます。NetSpot を使用する他の PC で使用したり、バックアップデータとしてもお使いいただけます。

【エクスポート】

(1) メニューの「ファイル」から、データをエクスポートします。



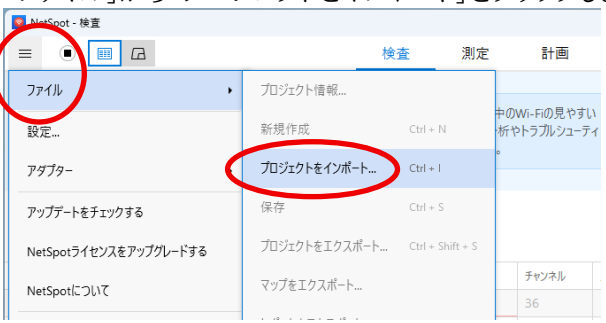
(2) わかりやすい名前を付けて任意の場所に保存します。



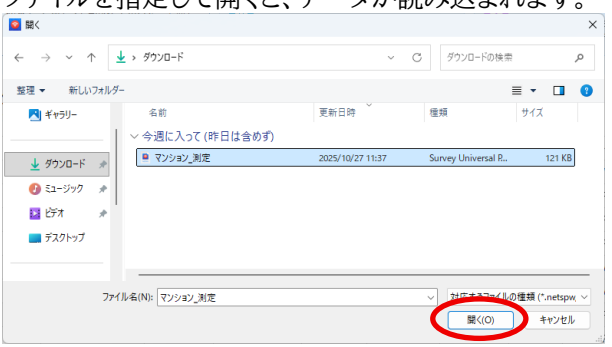
(3) エクスポートしたファイルを保管しておけばバックアップになります。エクスポートしたデータを他の PC で読み込むには、下記手順でインポートしてください。

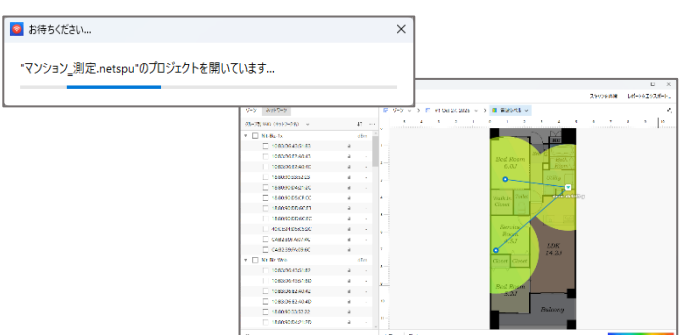
【インポート】

(1) 「ファイル」から「プロジェクトをインポート」をクリックします。



(2) ファイルを指定して開くと、データが読み込まれます。





6-3　プロジェクトのコピー

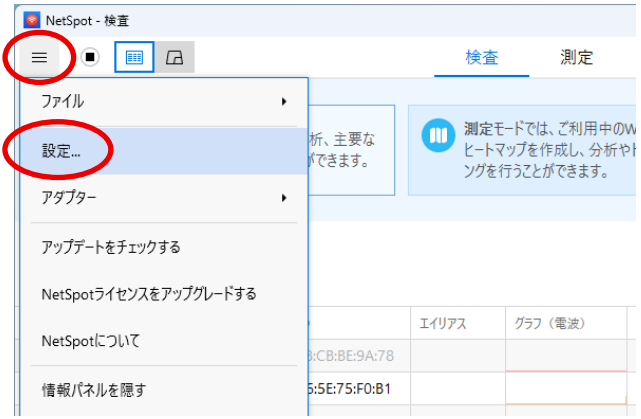
「測定」タブ、「計画」タブで作成したデータは、プロジェクト単位でコピーして使用することができます。同じ間取りや同じ構造の建物を複数調査する場合など、同一 PC 上でプロジェクトを複製して使用する手順です。

プロジェクトを保存すると、プロジェクト一覧に表示されますので、メニューから「複製」を選択してください。



6-4 設定

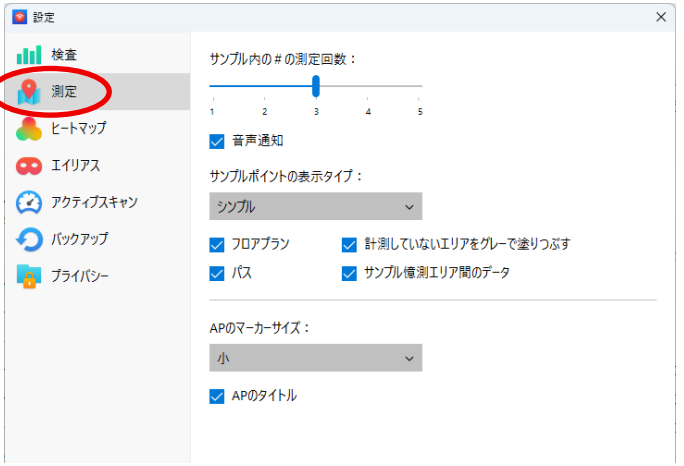
設定画面は、左上の ☰ から表示できます。必要に応じてご利用ください。



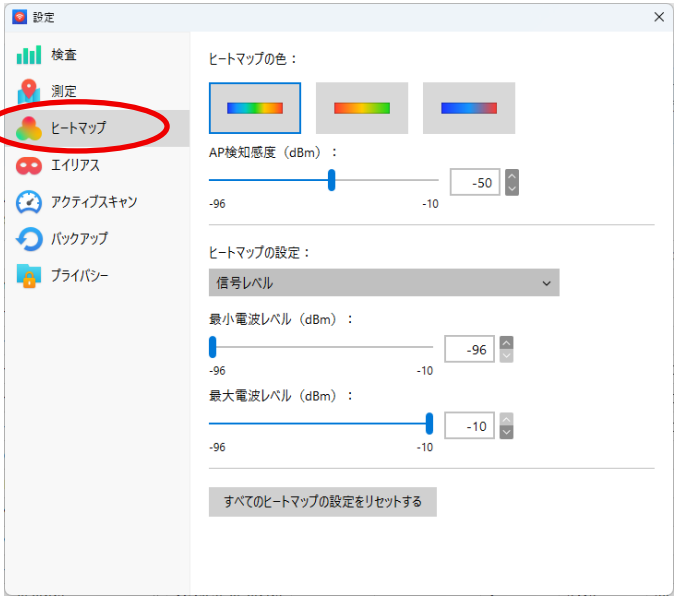
(1) 検査



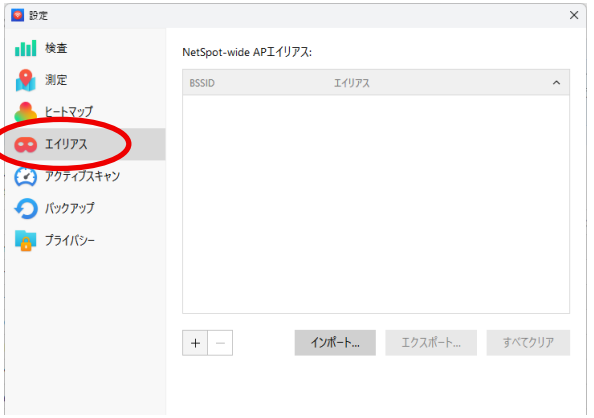
(2) 測定


設定
検査
測定
ヒートマップ
エイリアス
アクティブスキャン
バックアップ
プライバシー
サンプル内の＃の測定回数：
1
2
3
4
5
音声通知
サンプルポイントの表示タイプ：
シンプル
フロアプラン
計測していないエリアをグレーで塗りつぶす
パス
サンプル値測エリア間のデータ
APのマーカーサイズ：
小
APのタイトル

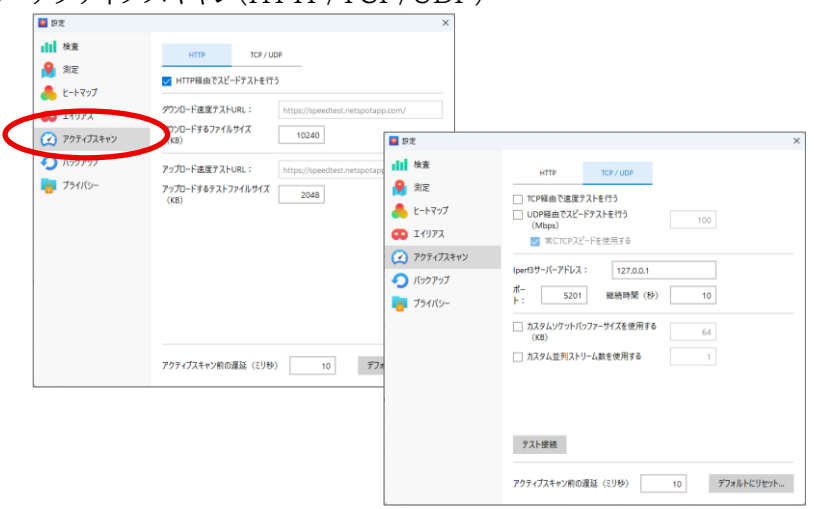
(3) ヒートマップ


設定
検査
測定
ヒートマップ
エイリアス
アクティブスキャン
バックアップ
プライバシー
ヒートマップの色：
AP検知感度（dBm）：
-50
-96
-10
ヒートマップの設定：
信号レベル
最小電波レベル（dBm）：
-96
-96
-10
最大電波レベル（dBm）：
-10
-96
-10
すべてのヒートマップの設定をリセットする

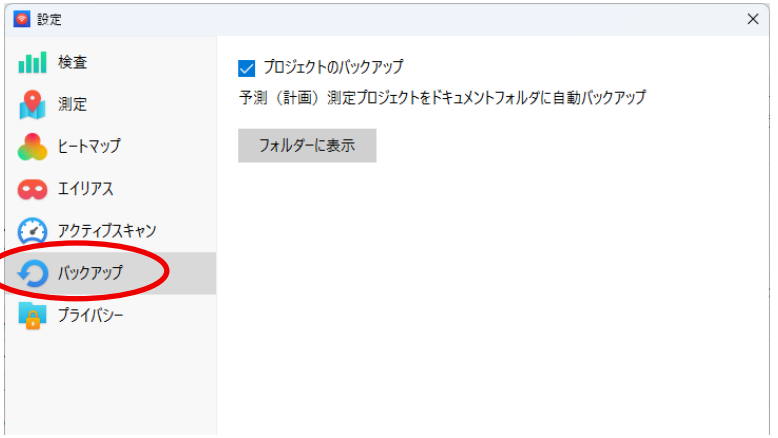
(4) エイリアス



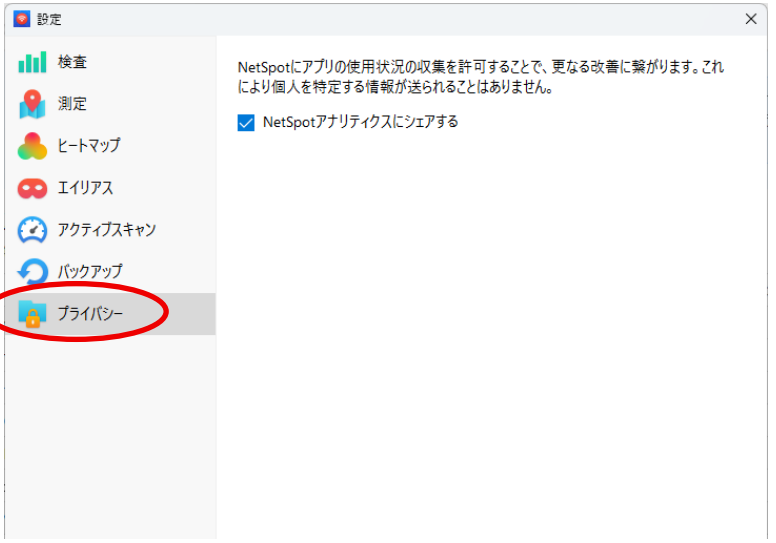
(5) アクティブスキャン(HTTP/TCP/UDP)



(6) バックアップ

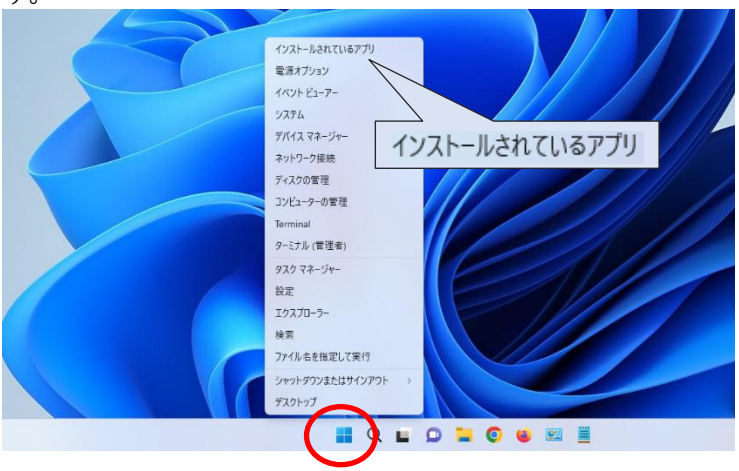


(7) プライバシー

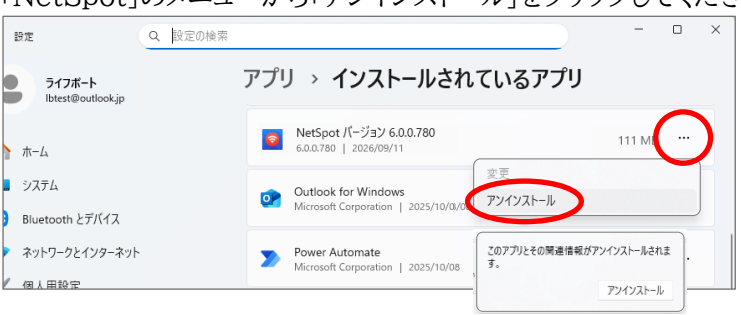


6-5 アンインストール

(1) スタートボタンを右クリックし「インストールされているアプリ」を選択します。



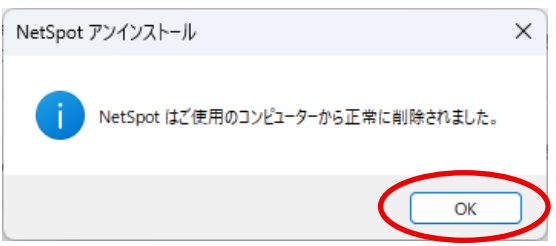
(2) 「NetSpot」のメニューから「アンインストール」をクリックしてください。



(3) ユーザーアカウント制御の画面が表示された場合は「はい」をクリックしてください。

(4)　下記のようなメッセージが表示されます。画面にそって進めるとアンインストールが完了します。





※　アンインストールは、「コントロールパネル」の「プログラムと機能」からも行えます。「NetSpot」を選択し、「アンインストール」をクリックしてください。

